第 104 回　植民地戦争と奴隷貿易

1　第２次英仏百年戦争

・17 世紀末からイギリスとフランスは、ヨーロッパにおける戦争と連動して海外植民地でも抗争するようになった。この抗争は（　　）と呼ばれる。

＜　　（1713 年）＞

・イギリスは、フランスから（　　）・アカディア・ハドソン湾地方を、スペインから（　　）・ミノルカ島などを獲得した。

・イギリスは、奴隷供給契約の（　　）を獲得し、奴隷貿易を独占した。

・七年戦争（フレンチ=インディアン戦争）中、インドでも英仏が争い、1757 年には（　　）が行われた。

→東インド会社の書記（　　）の活躍で、イギリスが勝利した。

→南インドでもカーナティック戦争におけるイギリスの勝利が確定した。

クライヴ
イギリスのインド支配の立役者。ただ最期は哀れだった。

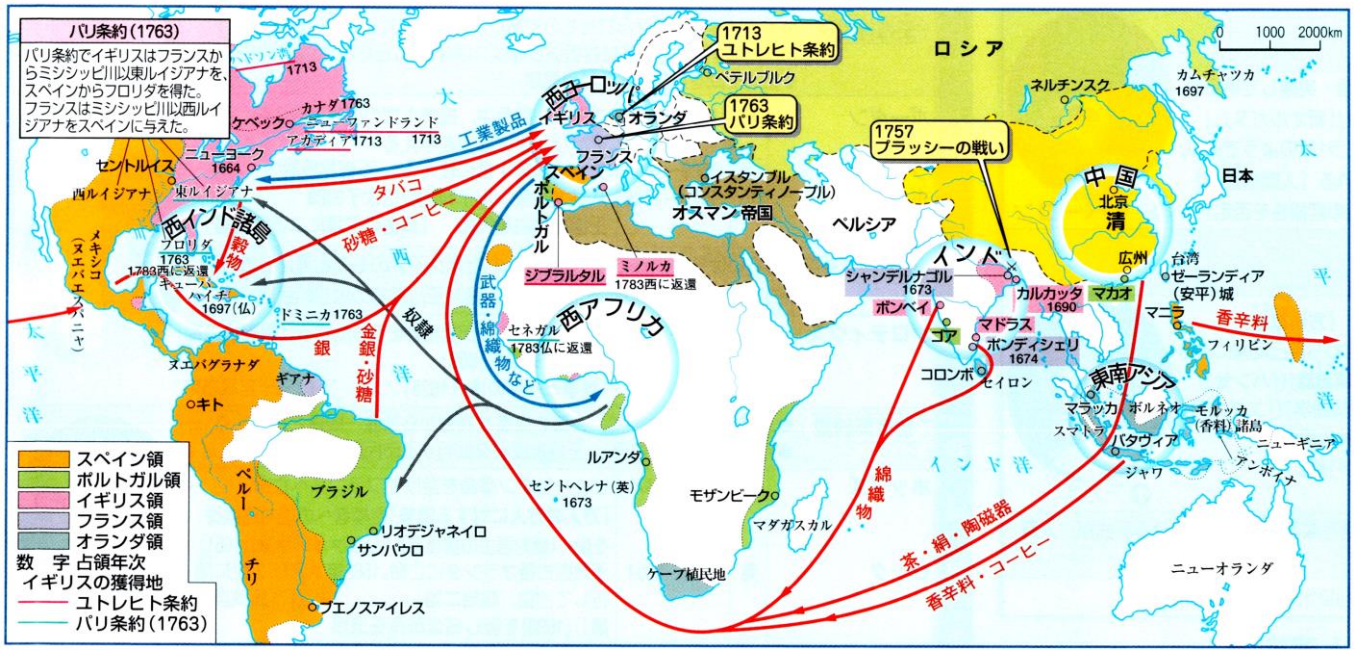
＜　　（1763 年）＞

・イギリスは、フランスから（　　）、（　　）、西インド諸島のドミニカを、スペインからは（　　）を手に入れた。

※なおミシシッピ川以西のルイジアナは、フランスからスペインに割譲された。

→インドやアメリカ大陸における、（　　）が明らかになった。

1770年代の世界貿易



2　黒人奴隷と大西洋三角貿易

・17 世紀以降、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの間で、大西洋をはさんだ貿易が活発に行われるようになった。
※これを（　　）という。

＜三角貿易の背景＞

・17 世紀から 18 世紀にかけて、ヨーロッパでは（　　）や（　　）を飲む習慣が広まっていった。
→（　　）の需要が高まったため、カリブ海の植民地ではサトウキビの（　　）経営が始まった。
→プランテーションで働くための労働力が必要となった。

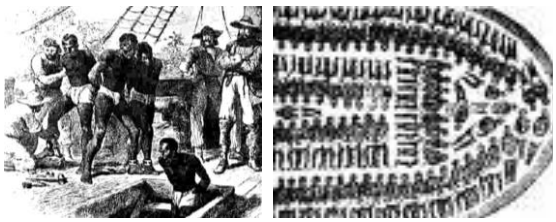
ロンドンのコーヒーハウス
人々は、情報を求めてコーヒーハウスに集まった。そこから証券取引所や保険会社が生まれ、世論が形成された。

＜ヨーロッパ→アフリカ＞

・まずヨーロッパ人は（　　）をアフリカに運び、それをアフリカ人に渡して人間狩りを行わせた。
→アフリカのギニアにあった（　　）、後に（　　）、ブガンダ王国、アシャンティ王国は、黒人奴隷の販売によって栄えた。

＜アフリカ→アメリカ＞

・次にヨーロッパ人は、アフリカで手に入れた（　　）を船に満載し、カリブ海の島々やアメリカ大陸に渡った。

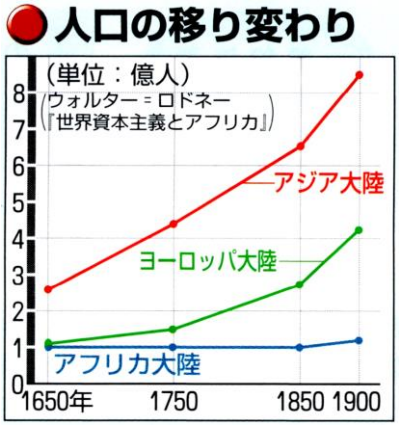


船に乗せられた黒人奴隷

鎖につながれた奴隷は、身動きできないほど詰められた。劣悪な環境の中、輸送中に死亡する者も多く、死体は海に廃棄された。
黒人奴隷=商品である。

奴隷オークション

輸送された奴隷は、オークションで売買され、サトウキビや綿花のプランテーションに送られた。
人間扱いされていなかったことがわかる。

＜アメリカ→ヨーロッパ＞

・そしてカリブ海の島々やアメリカのプランテーションで働かせ、そこで生産された（　　）・（　　）・（　　）を積み、ヨーロッパで販売した。
→イギリス西部の港（　　）やブリストルは、大西洋三角貿易の拠点として栄えた。